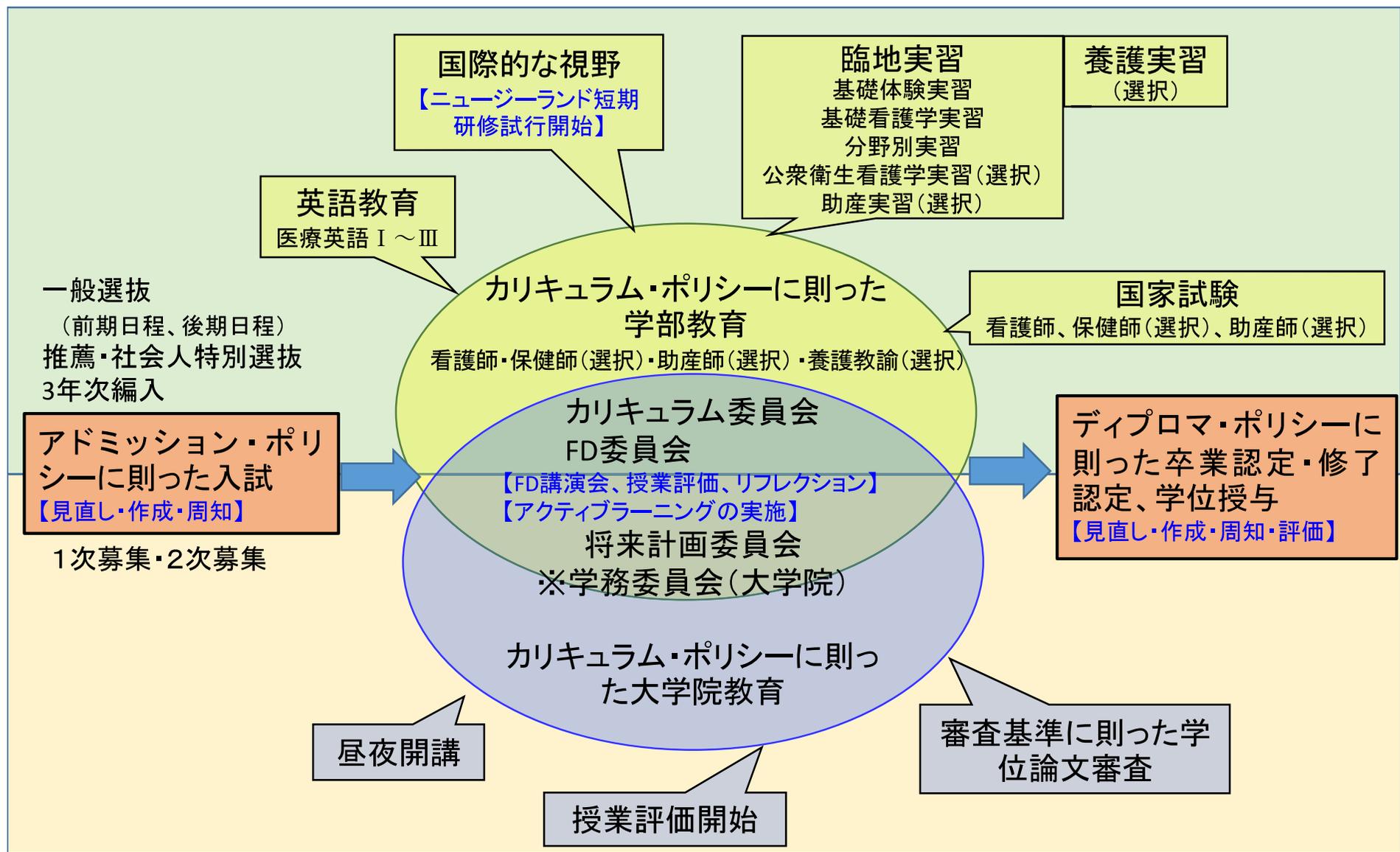


平成28年度医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
<p>基準4 学生の受入</p> <p>4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。</p> <p>4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。</p>	<p>入学者選抜の改善に繋がった取組</p> <p>○平成28年度の看護学科入学者数は80名で定員の1.0倍（3年次編入学の定員10名を除く）で適切であった。看護学専攻の入学者数は4名で定員の0.5倍であった。</p> <p>○看護学科の平成29年度入試状況（受験倍率）は、社会人特別選抜（1.3倍）を除くすべての選抜で2倍を上回っていた。看護学専攻は、二次募集まで実施し、定員8名のところ、9名が受験し、欠格事項に照らし合わせた結果、7名が合格した。</p> <p>○教育推進・学生支援機構 教学企画室策定指針である3つの方針に基づきディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを作成した</p> <p>○看護学専攻の3つのポリシーの見直しを行い、教員や院生への周知すると共に、看護学専攻のwebページで公開した。</p>	<p>資料1：入学定員の充足率</p> <p>資料2-1～2：1.平成29年度医学部看護学科・大学院医学系研究科看護学専攻入試選抜概況 2.志願者倍率・受験倍率・入学者数の推移</p> <p>資料3：看護学科の3つのポリシーと専門的能力の水準</p> <p>資料4：看護学専攻の3つのポリシーと専門的能力の水準</p>	<p>医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻の取り組み</p>
<p>基準5 教育内容及び方法</p> <p>5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程）</p> <p>5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）</p>	<p>単位の実質化を図るための取組</p> <p>○学生の主体的な学修活動を推進するため、学生参加、共同学修の実態把握を常勤教員に行った。その結果、実習、発展科目、初年次セミナー、非常勤、選択課程を除く、46科目におけるアクティブラーニングの実施状況は67.4%であり、積極的に取り組んでいた。</p> <p>○看護学教育の専門科目（87単位）のうち4分の1は実習科目（23単位）であり、学生は少人数のグループでさまざまな体験をする。グループごとに教員が実習に出向き、学生が患者に応じた看護を展開できるための具体的指導を実施した。十分な指導体制をとるために、欠員のある実習には実習補助者で対応した。</p> <p>○国際的な視野を身につける第一歩として岐阜大学短期海外研修奨学金より1人あたり10万円を助成し、平成29年2月25日（土）～3月5日（日）、看護学科2年生15名を田島弥生准教授が引率しニュージーランドマヌカウ工科大学に</p>	<p>資料5：学生の主体的な学習活動を推進するためのアクティブラーニングの活用について</p> <p>資料6:NEWS Letter ニュージーランド看護研修</p>	

	<p>おける短期研修を試行実施した。</p> <p>○院生全員が社会人ということに配慮して時間割を作成している。院生の研究指導・論文指導については、院生が仕事と両立できるよう、柔軟に対応している。年度末に実施したアンケートにおいても高評価が得られた。</p>	<p>資料 7：大学院アンケート結果（教育内容）</p>	
<p>基準 6 学習成果</p> <p>6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。</p> <p>6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。</p>	<p>学習成果の向上に繋がった取組</p> <p>○卒業生 78 名のうち 72 名が看護師・保健師・助産師・養護教諭として就職し、そのうち 41 名（56.9%）県内に就職している。6 名が進学している。</p> <p>○平成 28 年度国家試験合格率は、看護師、助産師、保健師すべて 100%であった。</p> <p>○卒業時の意識調査より、卒業時に身についた力に関する 6 項目（5 段階評価）について 1～5 項目において 87～92.2%が（身についた、どちらかといえば身についた）としていたが、6.「国際的な視野と地域医療への貢献を視野に入れた看護を発展できる能力」については 64.9%が身についたとしていた。</p> <p>○授業評価の結果から、昨年度と比較し、学生の意欲的な取り組みや積極的な学習態度は上昇していた。演習科目、実習科目は昨年とほぼ同じ傾向であった。</p> <p>○平成 28 年度から導入した授業評価に回答した院生全員が「新しい知識や考え方を得ることが出来た」と回答していた。33%の院生は、研究能力の向上に「非常に役立った」と回答し、他の院生も「かなり役立った」や「やや役立った」と回答していた。</p> <p>○年度末に実施したアンケートでは、62%の院生が学んだことを職場に反映できしており、25%は「やや反映している」と回答していた。</p>	<p>資料 8：平成 28 年度進路一覧・県別就職者数推移</p> <p>資料 9：国家試験合格状況</p> <p>資料 10：平成 28 年度 4 年生に対するアンケート調査結果</p> <p>資料 11：看護学科授業評価結果</p> <p>資料 12：平成 28 年度「大学院生による授業評価」【専門科目】集計結果</p> <p>資料 13：大学院アンケート結果より</p>	

<p>基準8 教育の内部質保証システム</p> <p>8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。</p> <p>8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。</p>	<p>教育の質の改善に繋がる取組</p> <p>○授業評価項目の一部修正（学生の満足度を追加）、授業評価等について教員会議にて報告している。また、FD活動に関する学外への公表として、「FD委員会たより」として看護学科のホームページに掲載した。</p> <p>○教員によるリフレクションペーパーより、社会的な問題となっている事象や学生に身近な例を取り上げることなどの工夫や説明内容を厳選し、説明に時間をかける等の工夫がなされた。（先述の委員会便りに記載）</p> <p>○学生による授業評価で高評価の教員の公開授業を行い各教員のブラッシュアップにつなげた。</p> <p>○実習施設の指導者及び教員に対して「自ら学ぶ力を育成する看護教育」と題し外部講師の講演会を実施し両者の教育に係る共通認識を図った。</p>	<p>資料14：岐阜大学医学部看護学科 ホームページ FD 委員会便り ①②</p> <p>資料15：岐阜大学医学部看護学科FD委員会企画「授業内容共有」アンケート結果</p> <p>資料16：平成28年度第2回岐阜大学医学部看護学科・看護学専攻FD委員会企画講演会【自ら学ぶ力を育成する看護教育】アンケート結果</p>	
---	--	--	--



医学部看護学科・医学系研究科看護学専攻の取り組み